

発行所 建設新聞社

本社 仙台市青葉区春日町7-5 TEL022(221)4601(大代)

青森支局 青森市古川1丁目21-11 TEL017(722)8631代

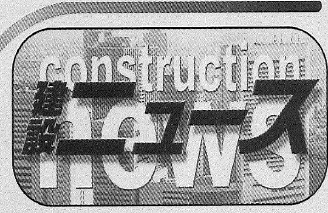
岩手支局 盛岡市菜園1丁目3-6 TEL019(651)8045代

秋田支局 秋田市山王4丁目3-10 TEL018(862)6921代

山形支局 山形市松波1丁目10-16 TEL023(641)2800代

福島支局 福島市宮下町17-20 TEL024(534)0138代

東京支局 東京都江東区豊洲1-3-2 TEL03(5547)1367



2015

10月2日

金曜日

建設新聞

今月から運用を開始

鉄筋モックアップが完成

東北初の配筋検査研修用モデル施設

日本建築構造技術者協会(JSCA)東北支部(加藤重信支部長)が、宮城県大衡村に整備を進めてきた配筋検査研修用の実物大モデル施設「鉄筋モックアップ」が完成した。モデル施設にあえて発生させた施工上のミスや、設計図・施工図を読み解きながら見つけ出す研修などに活用する。コンクリート打設直前の配筋検査を担当する設計・工事監理者や施工者、鉄筋業者らの技術力向上とともに、若手の確保・育成にも役立てていく考え。施工(元請け)は、東北建設企画(仙台市)が務めた。今月中に運用を始める。

備も組み込み、できるだけ実際の建物に近い現場となるようにした。また、型枠の一部に透明の亚克力板を使用することで、内部構造の確認も可能となっている。

配筋検査の能力を高めるため、あえて施工上のミスを生じさせた。例えば、鉄筋の本数や太さ、向き、圧

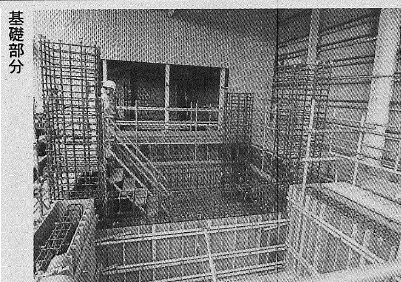
接状況など、さまざまな間違いが100カ所弱、ちりばめられているという。研修では、設計図・施工図を基にこれらのミスを見つけていく。

9月30日には、JSCA東北の福土昭治技術委員長(清水建設)らが竣工前検査を実施。福土委員長は「こうした施設は、東北には存在しなかった。鉄筋は立体的であり、現物を見ることで検査のスキルアップはもちろん、納まりなども理解できる。研修を受ける人の安全にもしつかり配慮されている」と高く評価。また、「多くの企業や個人が、敷地の貸与や施工、資材の提供、資金の寄付などで協力してくれたからこそ、施設完成を迎えることができた」と謝意を示した。

竣工前検査に臨む福土委員長

施工を手掛けた東北建設企画の城守利幸作業所長は、「普段はミスが無いような工事を管理しているが、今回は施工上のミスを入念的に生じさせる必要がある。間違えたものを造ることの難しさをあらためて実感した。多くの人がこの施設を使って、それぞれの技術力を高めてほしい」と話した。

施設の運用に当たっては、すでに策定済みの教育プログラムを活用しながら、構造設計者や工事監理者、施工管理者、メーカー、代理店担当者、鉄筋工事従事者らの研修を予定。また、土木・建築系の大学生や工業高校生向けの見学会・研修会には、人材確保・育成の観点から無償使用を認める考え。設置期間は5年間を想定している。



RC造などの建築物の品質を確保する上で、設計図通りに鉄筋を組み立てることは重要なポイントの一つ。このため、柱・梁・壁・スラブ・基礎などの鉄筋の配置や寸法・数量・種別などを示した配筋図に基づき、正確に鉄筋が施工されているかをチェックする「配筋検査」をコンクリート打設前に行うことが決められている。ただ、設計者らの中には現場を見たことがない者もあり、その検査能力を高めることが大きな課題となっていた。

こうした状況を踏まえ、JSCA東北では、配筋検査の現場を体験できる研修用施設が必要と判断。宮城県鉄筋工事業協同組合に協力を要請したところ、組合員のサンエーテックが大衡村大衡宇尾西の同社敷地内にある建屋を無償で貸し出してくれ

種別の基礎(杭基礎、ベタ基礎、直接基礎)と、地上部の柱・床・梁などの配筋を終えた状況を実物大で再現。鉄筋の定着方法にはネジコンと圧接の2種類を採用したほか、配管などの設

備も組み込み、できるだけ実際の建物に近い現場となるようにした。また、型枠の一部に透明の亚克力板を使用することで、内部構造の確認も可能となっている。

敷地の貸与や施工、資材の提供、資金の寄付などで協力してくれたからこそ、施設完成を迎えることができた」と謝意を示した。

竣工前検査に臨む福土委員長

施設の運用に当たっては、すでに策定済みの教育プログラムを活用しながら、構造設計者や工事監理者、施工管理者、メーカー、代理店担当者、鉄筋工事従事者らの研修を予定。また、土木・建築系の大学生や工業高校生向けの見学会・研修会には、人材確保・育成の観点から無償使用を認める考え。設置期間は5年間を想定している。